

日野川の源流と流域を守る会

会報

# しのがわ

第45号



日野川フォトコンテスト2023 スマホ部門  
題名：産卵場を見守る鮎雲  
撮影者：宮本 三枝子  
撮影地：日野川河口

## 目次

- 令和6年 イベントレポート……………2~4  
日野川の自然環境と希少生物を守る体験学習  
森林整備体験と自然観察会・日野川源流探訪  
川海の繋がり体験・日野川支流の魅力発見ツアー
- 寄稿 日野川支流・俣野川にかかる大山隠岐国立公園・鏡ヶ成の取組……………5
- 寄稿 奥大山パークレンジャーが語る日野川への思い……………6
- 法人・団体会員の紹介……………7
- 普及啓発活動報告・会員募集・日野川流域憲章……………8

# 令和6年 イベントレポート

日野川の源流と流域を守る会では、日野川流域の魅力を多くの皆様を感じ、知っていただき、その魅力を次の世代に引き継いでいただけるよう、様々なイベントを実施しています。今回は、令和6年に実施したイベントの様子をご紹介します。

## 日野川の自然環境と希少生物を守る体験学習



NPO法人日本ハンザキ研究所岡田純氏おかだ すみおを講師に迎え、奥大山江府学園の児童約50名、日野高校2年生で選択科目「アクア」を履修する3名が江府町内の日野川支流でオオサンショウウオなどの水生生物の生態調査の体験学習をしました。

### 奥大山江府学園（7月30日(火)）

江府町の奥大山江府学園の児童たちが午前と午後の部に分かれて体験学習をしました。

はじめは水に入るのを恐れていた児童もいましたが、すぐに慣れて川の中で色々な生き物を捕まえていました。児童たちは「オオサンショウウオを見つけたい」と言いながら川の中を進んでいき、一生懸命探しましたが、残念ながら見つけることはできませんでした。

その後、自分たちが探した場所で、後から岡田講師がオオサンショウウオを見つけたことを知り、残念がっていました。



大物をゲットするぞ



岡田講師の丁寧な解説

岡田講師は近くの場所からもう1匹、計2匹の若いオオサンショウウオを見つけ、「このようにサイズの違うオオサンショウウオが見つかるということは、世代交代が出来ているということです。こういう環境を大事にしてほしい。」というお話がありました。



現地に生息していたオオサンショウウオ



自分で捕った生物は何か？

### 日野高校（9月10日(火)）

岡田講師に水生生物の捕まえ方を教えてもらったり、奥大山パークレンジャーの皆さんにサポートしてもらいながら、3人の高校生は川の中に入っていました。



岡田講師の解説に聞き入る生徒たち

石の下など、生き物が隠れていそうな場所にタモを入れたり、足で砂をかき分けてみたりして水生生物を捕まえていきました。

「水がきれい、餌になるカエルやサワガニ、水生昆虫等がいること等がオオサンショウウオが生息できる環境です。日野川にはオオサンショウウオが多い、大事にしてほしい」というお話を聞きました。

高校生からも「日野川の素晴らしさがわかった」という声が聞かれました。



タモを使って採取

## 森林整備体験と自然観察会（5月26日(日)）



会員11名に参加いただき、森林整備体験を日南町で開催しました。大型機械を導入し間伐作業を行っている豊栄の現場で、林業従事者の<sup>とちぎ たつあき</sup>榎木建明氏と<sup>すやま さとみ</sup>須山里実氏から、現在行われている森林整備の話をお聞きしました。昔とは違い、木材の価格が安くなってしまったため、間伐作業では、大きな木から切っていくという説明を受け、非常に驚きました。体験では、のこぎりを使って昔ながらの丸太切り作業を行いました。



タゴガエルを発見した佐藤講師を囲んで観察

午後は、新屋に場所を移し、溪流添いで自然観察会を行いました。その日は、米子の最高気温が32.5℃を超え、5月なのに真夏日。しかし、日南町の森の中は、涼しく、快適で、野鳥の声も聞こえました。

<sup>だるま すずむ</sup>達磨晋氏から野鳥の生態、<sup>ふじはら ふみこ</sup>藤原文子自然保護監視員から植物の説明、<sup>さとう かんた</sup>佐藤幹太氏からは両生類、爬虫類の話をお聞き、あっという間に時間が過ぎてしまった楽しい観察会となりました。



作業道を歩いて現地へ



間伐作業中の林内での解説

## 日野川源流探訪（6月15日(土)）

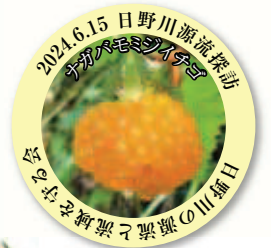
当会のメイン行事で普段入ることができない国有林に許可を得て入林し、日野川源流を目指す特別な観察会「日野川源流探訪」を会員10名に参加いただき、開催しました。

講師は大山自然歴史館の<sup>やたがい しげあき</sup>矢田貝繁明館長、<sup>だるま すずむ</sup>達磨晋氏、<sup>すやま さとみ</sup>須山里実氏、<sup>ふじはら ふみこ</sup>藤原文子自然保護監視員と幅広い講師が揃いました。道すがら、植物の話、野鳥の話、両生類・爬虫類の話、たたら製鉄での森の役割の話をお聞きしました。

途中からは、道が狭く、急になるので、ひたすら源流の碑を目指し、もくもくと歩きます。川の中をじゃぶじゃぶと渡ったり、ロープで斜面を登ったり、沢を越えたりと変化に富む道で、途中飽きることはありません。源流の碑に到着した後で、皆さんの手を借り、源流の碑についての苔を取り除いて、きれいになった碑の前で写真を撮りました。

源流に行くたびに日野川の自然の豊かさを知る嬉しい発見があります。この感動は現地でしか味わえません。

来年こそ「日野川源流探訪」で日野川の最初の一滴を一緒に見つけに行きませんか。



橋を渡り沢を越え源流に向かう



参加者の手できれいになった碑の前で記念撮影

## 川海の繋がり体験 (7月7日(日))

川海の繋がり体験として、前半は、日吉津海岸に繁茂し本来の生態系を崩す恐れのある外来植物オニハマダイコン除去作業を実施しました。すぐに袋いっぱいになり、次々と新しい袋に入れていきました。かなり株が大きくなっていましたが、砂地なので簡単に抜くことができました。

熱中症計が鳴ったため、予定時間より早めに作業を終了し、観察会も移動しながらの短時間しかできませんでした。

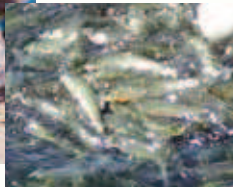
鮎種苗生産場長  
森下さん



後半は、日野川水系漁業共同組合鮎種苗生産場を見学させていただきました。オニハマダイコン場長の森下さんから日野川のアユの現状、日野川流域の環境の説明を聞いて、アユの稚魚が泳ぐ水槽の見学もさせていただきました。アユを取り巻く環境についてたくさんの質問も出て、参加者は熱心に聞き入り、楽しい時間を過ごすことができ、日野川や水の大切さを学ぶ良い一日となりました。



森下場長の解説の様子



元気に育つ若アユ



砂浜にはびこるオニハマダイコンの除去作業



外来植物



大量に除去したオニハマダイコンと参加者の皆様



## 日野川支流の魅力発見ツアー (9月28日(土))

日野川の支流の一つ、俣野川の始まりである鏡ヶ成で日野川支流の魅力発見ツアーを開催しました。当日は下界では好天でしたが、鏡ヶ成では集合時間には濃い霧と雨、強風となり開催が危ぶまれましたが、天候の回復を待ちツアーを開始しました。

午前の湿原満喫コースでは、鏡ヶ成湿原を散策しながら、湿原保全の取り組みの解説があり、参加者からは取組に敬意を表する声が聞かれました。

夏の猛暑の影響なのか例年この時期に見られる花の姿がないものもありましたが、それでも、アケボノソウやリンドウなど鏡ヶ成を彩る秋の植物たちを観察することができました。また、雨も降っていましたがトンボやハチの姿もあり、昆虫の専門家である千村隆司講師、神庭賢一講師からも解説をいただきました。

午後の森林満喫コースでは、森の中に整備された自然学習歩道を歩き、植物や昆虫のほかにも、ヤマアカガエル等の両生類の観察や野鳥の声も聞くことができました。

午前、午後とも、参加者から講師陣に多くの質問があり、皆さんが日野川流域の自然に興味を持っていただいていることを大変喜しく思いました。

参加者の皆様からは、いろいろな話が聞けて満足した等のお声もいただき、支流の魅力を知っていただく良いツアーになりました。



鏡ヶ成湿原で自然観察



森の中での昆虫の解説

## みんなの日野川学校

7月13日に開催を予定していた「みんなの日野川学校」は、数日前からの降雨による河川の増水により残念ながら中止させていただきました。今回30名の定員に対し230名を超える応募をいただき、日野川に対する関心の高さを感じたところです。来年のイベントの計画に反映していきたいと思っております。